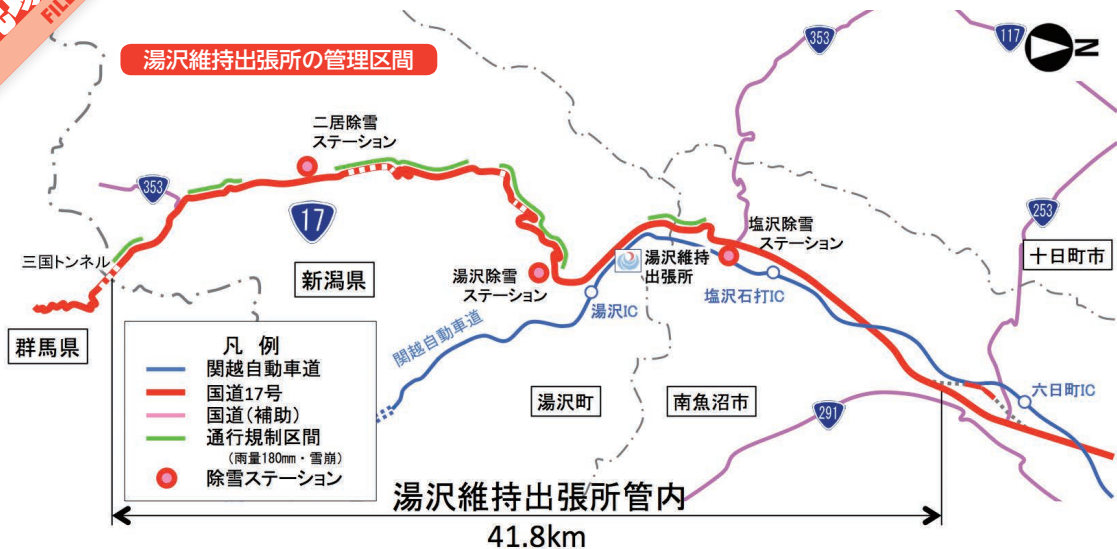


北陸地方整備局 長岡国道事務所
湯沢維持出張所

日本有数の豪雪地帯の幹線道路は 日本最強の除雪部隊が守る

世界でもまれな豪雪地帯として知られる新潟県湯沢町。国道17号沿線の中でも急峻な山岳地帯を越えて行くこのエリアは、日本海側と首都圏を結ぶ交通の要衝です。今回は「日本最強」と称される除雪部隊を持つ北陸地方整備局 長岡国道事務所 湯沢維持出張所の冬期交通確保の取り組みを通して、雪国での道路管理の現場を紹介します。





**豪雪と険しい山々に囲まれて
幹線道路の交通を守り続ける**

湯沢維持出張所は、北陸地方整備局長岡国道事務所に属する4つの維持出張所の一つ。日本海側と首都圏を結ぶ

産業・経済を支える広域幹線道路である国道17号の新潟県南魚沼郡湯沢町三國から同県南魚沼市竹俣までの41.8kmにわたる区間の維持管理を担当しています。この区間の多くは、急峻な地形に囲まれた山岳道路です。



冬の湯沢維持出張所



除雪ステーションから出動する除雪車

またこの沿線は、豪雪地帯としても知られ、雪崩の発生が予想されるときなどの異常気象時における道路通行規制区間から力所も設けられています。湯沢維持出張所長の長澤輝は「標高差も非常に大きく、南魚沼市から三國トンネルまでの標高差は906mもあります。このため麓の出張所では晴天でも、監視カメラで確認すると山の上は雪というこもしばしばです」と語ります。出張所では毎日、監視カメラのモニター映像や気象情報などを基に、除雪作業や交通規制の必要性を判断しています。気象観測装置や監視カメラは36カ所に設置され、必要が

あれば道路情報板などを通じて、通行車両へ直ちに情報提供が行われます。

**「日本最強の除雪部隊」の秘密は
他に負けない責任感と高い技術力**

湯沢維持出張所は、二居、湯沢（湯沢情報ターミナル内）、塩沢の三つの除雪ステーションを有しています。各除雪ステーションは民間の委託業者が受け持ち「日本最強の除雪部隊」と称され、全国にその名を知られているのをご存知でしょうか。その理由は大きく二つあるのではと長澤は言います。一つは、地域の重要幹線道路である国道17号を守っているという責任感と高い士気を持ち、過去の度重なる豪雪でも確実に道路交通を確保してきた実績です。

「いよいよ降雪の季節が来ると、除雪車両のオペレーターが空を見上げながら『自分たちの出番だ！』と活気づいているのが分かります。他に絶対負けないという責任感や使命感を持って除雪作業にあたり、まさに日本最強だと思えます。もう一つの理由は、技術面で腕



道路情報管理室には監視カメラの映像や管理区間の情報が集まる。

利きのメンバーがそろっていることです」（長澤）

機械担当の専門官 大崎智は、湯沢維持出張所には、常にその時々々の最高の機械が投入され、オペレーターも最高の技術で心えてきたと明かします。

「除雪機械を開発する技術者の間では『湯沢で使えればどこでも使える』と言われており、実際に試作車両が投入されることも少なくありません。それを現場でオペレーターのオペレーターが使用してみ、問題があればメーカーに伝えて、さらに改良するという技術革新のPDCAサイクルが確立されています」（大崎）



群馬県での除雪支援



埼玉県での除雪支援

連日の除雪から雪崩パトロール 豪雪災害の救援まで幅広く活躍

冬の降雪時季になると、出張所は多忙を極めます。除雪業務を担当する管理第二係長^{あいた}四十谷朋子は、毎日夕方4時になると気象情報会社から送られてくる気象予測を基に、それぞれの除雪ステーションの担当者に連絡を入れます。その作業指示を基に、除雪ステーションから作業車両が出動するのです。除雪の担当は「ここが初めてという四十谷は「それぞれの現場にはベテランの方も大勢いらっしやるので、そういう方々に教えていただきながら、より正確な指示ができるように努めています」と、現場とのコミュニケーションの大切さを語ります。

もちろん仕事は、除雪業務だけではなく、雪崩パトロールも災害防止の重要な任務です。過去に雪崩のあった箇所を重点的に監視し、異常があれば直ちに対応できる体制を整えています。この他にも、トンネル内に発生するつららの人力処理や、高所作業車を使った道路標識に積もった雪の除去など、厳しい自然環境下での地道な作業が降雪シーズンを通じて続きます。(詳しくは「もっと知りたい」P16〜17へ)

また出張所では、広範囲にわたる大雪に備え、新潟県や湯沢町などの自治体や関越自動車道を管理するNEXC○東日本との連携会議を通じて、緊急時には助け合つ体制を準備しています。平成26年の関東での大雪では、群馬県、

埼玉県に除雪業者や雪崩点検業者が除雪の支援に出動しました。「日本最強の除雪部隊」は、さまざまな場所で道路交通の確保を力強く支えています。

24時間体制で除雪作業・雪害対応に 取り組む人たちの頑張りを 知ってもらいたい

湯沢維持出張所長 長澤輝

平成28年4月に湯沢維持出張所長に着任した長澤は、入省以来、主に道路関係業務を中心に手掛けてきました。途中、新潟県道路建設課に出向するなど、新潟県の業務に深く関わってきた経験もあります。このため県の関係各所に知り合いが多く、仕事ではそうした方々とのネットワークが活かされることも少なくありません。「本格的な降雪シーズンを前に、関係機関との情報共有ができるように、しっかりと調整してきました。厳しい現場の責任者を務める上で、地域行政の方々とのつながりは大きな財産です」

出張所長として長澤が心掛けているのが、現場で除雪作業・雪害対応にあたる協力業者の皆さんの頑張りを、広く外部の方々にも知ってもらうことです。「冬でもお店に商品がそろっているように、道路は除雪されている、この『当たり前』のために、正月も休まず24時間体制で国道17号の安全・安心な冬期交通の確保に取り組む人たちがいるのです。本当に頭が下がる思いです」。その一方

で、出張所職員も適切な対応ができるように「冬期道路管理に関する勉強会」を開催しています。「ここでは専門家を講師に招いて、雪崩の経験談や現場での身の守り方なども含めた実践的な知識を学びます。

「地域や国道17号を利用される皆さまの期待に応えられるよう、頼りになる協力業者の方々や関係機関と連携して、この冬をしっかりと乗り切っていきたいと思っております」



機械も人も昼夜の区別なく出動する。降りすぎる雪の中、除雪作業は続く。



夏に行う除雪車の分解整備



過酷な除雪作業も夏場の整備が支える。

「地域の方やドライバーが、現場で声を掛けてくれます。中にはわざわざ出張所に電話をかけてねぎらうってくださる方もいて、そういう時は、やはりこの仕事をしていてよかったですね」

夏場の徹底した機械整備が 除雪シーズン本番での 安全につながる

専門官 大崎智

除雪車や消雪パイプなどの機械・設備管理を手掛ける大崎が、日頃最も心掛けてるのは「壊れない」「万が一壊れてもすぐに直せる」体制を整えておくことだと語ります。

「万が一、除雪中に故障したら作業が止まってしまいます。そうなれば、地域や企業の皆さまなど、国道17号を利用する全ての方々の生活や活動に大きな影響を与えてしまいます」

それだけに、除雪機械の整備が一番大事なのは夏場だと大崎は強調します。雪の降る時季になって、いざ出動という時に問題が発見されたのでは間に合いません。そのためにも雪のない夏の間



いかに補修・整備しておくかが、冬の安全かつ確実な除雪作業につながります。

「例えば除雪車のタイヤは、車両自体の重みと除雪用の太いチェーンでシーズン終わりにはボロボロになるので、そうした傷んだ箇所点検や交換を行います。また、除雪作業に危険な箇所のチェックも夏場に念入りに行います」

もちろん夏場には夏場の道路維持作業がありますが、その合間を縫って機械メーカーとやりとりするなど、冬に向けて除雪機械担当は気を抜く暇がありません。そんな大崎が一番やりがいを感じるのが「ありがとう」の声を聞くときです。

先輩たちの知恵や経験に学びながら 除雪を通じた災害防止に 力を注ぎたい

管理第二係長 四十谷 朋子

四十谷は、技術者として今年で入省5年目。湯沢砂防事務所を振り出しに、立山などの砂防事務所を経て、平成28年4月から湯沢維持出張所に勤務しています。道路の除雪を担当するのは初めてですが、砂防事務所での経験を通じて得た山岳の防災知識を、雪崩防止などの面で活かせるのではと、所内からも期待されています。

「ここに異動してくる時に『湯沢は除雪のメッカだから頑張り』と言われてきました。まだ若く経験も浅いので、現場の方々との信頼関係づくりが何よりも大事だと心掛けています」

そのために四十谷は、本格的な降雪シーズンに向けて、この夏の準備期間を通じて、協力業者の方々のコミュニケーションを深めてきました。夏場に舗装路面の段差なども直しておかないと、除雪作業に支障が出ることもなかりかねないので。

「道路の凸凹などは、雪



普段のパトロールも重要な任務



が積もってからは工事ができません。だからこそ夏場に万全の準備をしておくことが、確実に除雪作業を行う上で大切なことです。そこで現場の方々いろいろな教えていただきながら、きちんと意思疎通ができる信頼関係を築くように努めました」

砂防事務所時代に土石流が発生して、自分たちが造った砂防堰堤が人家を守った時に感じた達成感や充実感を、今度は湯沢の除雪業務を通じて目指したいと、新たな職場での抱負を語る四十谷です。